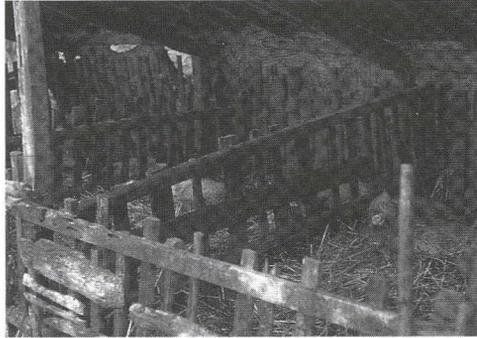


## 2 写真でみる豚コレラ防疫活動 (戦後)

—地域における発生と防疫活動—  
(年代順)

昭和 33 年の茨城県の発生と防疫活動



昭和 33 年頃の豚コレラ発生豚舎（茨城県）

「茨城の豚コレラ防疫史」茨城県家畜産物衛生指導協会，1991 年より



豚コレラ発生豚舎の消毒（昭和 33 年、茨城県）

動力噴霧器ミストの活躍

出典：同上

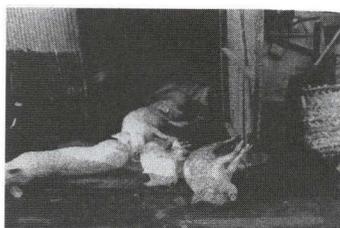
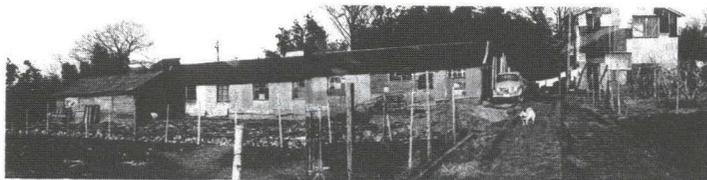


各種防疫器材を装備した家畜防疫車が配置された（昭和 35 年頃、茨城県）

出典：同上

昭和 37 ～ 39 年の石川県における発生と防疫活動

発生農家の一つ



斃死豚



検査



消毒



埋却作業

写真について

49 頁の図Ⅱ - 3 にもみられるように、石川県では戦後豚コレラは、昭和 26 年 88 頭、同 28 年 151 頭、同 31 年に 78 頭、同 33 年に 29 頭の発生があり、その後 3 年間発生はなかったが、昭和 37 年から 3 年間続けて大きな発生が記録され、昭和 38 年と 39 年は 308 頭及び 431 頭と、戦後最大の発生があった時期であった。当時の発生と防疫活動の一端を物語る写真集が鮮明な状態で農水省に保存されていたので、関係者のご了解を願って掲載させていただいた。その後昭和 42 年に発生が報告されて以後、同県では豚コレラの発生はない。

昭和41年2月の愛媛県松山市桑原町における発生  
(写真提供：愛媛県)



発生農場 豚舎入口



発生農場 感染豚

昭和48年4月の静岡県浜松市三方原における発生(1)

静岡新聞の報道

昭和48年4月26日

(木曜日)

# 浜松で豚コレラ

## 31頭を殺処分 周辺の移動を禁止

【浜松】浜松市三方原地区の養豚農家の豚に豚コレラが発生、県では二十五日、周辺地域を移動制限区域に指定するとともに、同市でも二十六日豚コレラ防疫対策本部を設け、防疫の徹底を図ることになっている。

豚コレラにかかった豚が出たのは同市三方原町、養豚業者野村さん(仮名)と、隣の同渡辺政利さん(仮名)で、豚に元気がなくなつた、という届け出が二十三日にあったため県西部家畜衛生研究所が調査に乗り出したところ、野村

約四百頭飼育しているうちの三十頭が豚コレラだと二十五日診断された。このため県では周辺の三方原町、大山町、吉野東町、吉野町、葵町の区域を豚に関する一切の移動を禁止する。移動制限区域に指定するともなう豚コレラにかかった豚を殺し、関係農家の消毒を急いでいる。

同市内は県下でも養豚農家が多く、現在約二万八千頭が飼育されているが、今回制限区域に指定された区域内では約二百軒の農家が約一万頭飼育している。同市内で

豚コレラが発生したのは昭和三十四年以來十五年ぶり、県下では四十二年富士地方で千七十五頭が被害して、いらい五年ぶり。

豚コレラはウイルスによつて起こる豚の急性熱性敗血症伝染病、豚特有の病気で人間や他の家畜類には感染しない。感染経路は豚尿のふん尿、分泌物、血液中に存在するウイルスが傷口感染し、予防法は予防注射の励行と感染豚の移動禁止が唯一の方法だといふ。ウイルスは低温だと数カ月から数年間生存し、六〇度では二十四時間近く生存、百度では死滅するが、県では取りあえず約一カ月間ぐらいを制限区域の指定期間とし、原因や感染経路を調べる。

豚コレラは四十四年に生ウイルスワクチンが開発されたため全国的にも発生が急減し、四十三年一万四千四百頭の発生をみたものが年々減少し四十七年には全国で六頭、五百二十六頭発生しただけ。この生ワクチンの注射をしておけばほとんど完全に予防出来るといわれているが、発生した養豚家は半分の豚にしか注射をしていなかったといふ。

豚コレラはウイルスによつて起こる豚の急性熱性敗血症伝染病、豚特有の病気で人間や他の家畜類には感染しない。感染経路は豚尿のふん尿、分泌物、血液中に存在するウイルスが傷口感染し、予防法は予防注射の励行と感染豚の移動禁止が唯一の方法だといふ。ウイルスは低温だと数カ月から数年間生存し、六〇度では二十四時間近く生存、百度では死滅するが、県では取りあえず約一カ月間ぐらいを制限区域の指定期間とし、原因や感染経路を調べる。

昭和48年4月の静岡県浜松市三方原における発生(2)

(写真提供：静岡県西部家畜保健衛生所)

- ① 感染した子豚は房の隅にうずくまる



- ② 検査



- ③ 防疫活動

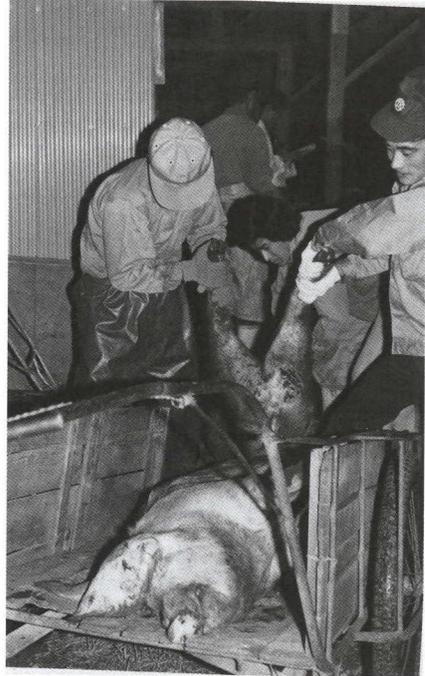


昭和48年4月の静岡県浜松市三方原における発生(3)  
感染豚の埋却作業(写真提供:静岡県西部家畜保健衛生所)

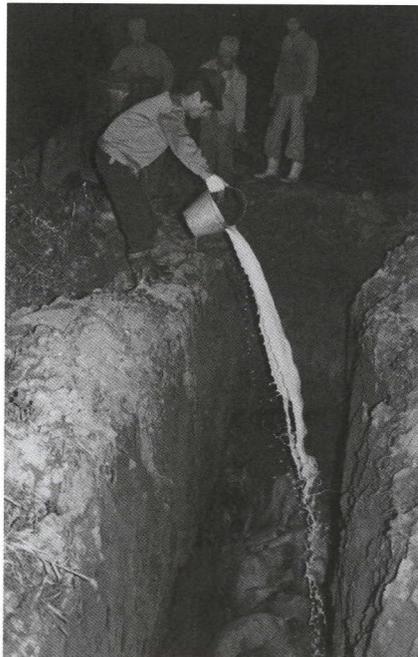
① 埋却は地下3メートルの深さに



② 運搬



③ 埋却後消毒薬が  
十分かけられる  
作業は夜中  
におよぶ



昭和55年5月の千葉県佐原市における豚コレラ発生の報道

# 佐原で豚コレラ発生

千葉日報（日刊）昭和55年5月9日（金曜日）第8417号

## 四十八頭が死亡

県農 313頭をと殺処分  
林部

県畜産課は八日、佐原市大倉地区で豚コレラが発生、すでに二百六十一頭が死亡したり、と殺処分されたことを明らかにした。県では同地区の九戸の養豚農家に対し緊急予防注射を実施するとともに豚の移動を厳禁する処分を行った。豚コレラは伝染力が強く、死亡率も一〇〇％と養豚農家では最も恐れられている伝染病で、全国的にも昭和五十年以来の発生である。（関連記事一面）

### 死亡率一〇〇％、予防措置急ぐ



原因が明らかになったところでは豚コレラが発生したのは佐原市大倉本西一九九六、養豚業、成毛織さんの方で、飼っていた八百四十三頭のうち、これまでに四十八頭が死亡、感染した二百十三頭がと殺処分された。

成毛さん方は、五月十八日四頭が病死し、県経営進北総家畜診療所を通じて県北部家畜保健所に病豚の鑑別を依頼、同保健所と県家畜衛生研究所で現地調査した結果、今日七日になって豚コレラと確定した。

このため、県では成毛さんのほか同地区の八戸の養豚農家（総飼養頭数五千七百三十頭）に対し、緊急予防注射を実施し、県下の家畜保健所に対しても衛生経過を通知し、予防注射の実施を呼びかけた。

【豚コレラの大発生は七緊急予防措置をとる県農林部】

ている。

また、豚コレラのウイルスは伝染力が極めて強いため、同地区の豚の移動を禁止する処分を取っている。県では感染経路についても現在、調査を進めているが、今のところ明らかになっていない。成毛さん方では、この二年間予防注射を実施していなかった。

豚コレラは、豚にだけ発症する伝染病で他の家畜や人間には無害。しかし、伝染力が強く、人や家畜を媒介とするほかりか、豚に刺さるにつる」といわれるほど、しかも死亡率は一〇〇％と高く最も恐れられている伝染病。

過去、県内では昭和四十二年に大発生し、二千四百頭余りが感染、死亡し、翌年九月まで蔓延した。今回発生した大倉地区は、この時にも被害を出している。全国的には、さる五月十一月、神奈川県で発生して以後約四年半、全く発生していなかった。

昭和 55 年 10 月の島根県における発生 (写真等提供：島根県農林水産部)

① 発生概要の記録

発生年月	1980 年 10 月	子豚	73 頭
発生場所	島根県簸川郡湖陵町	哺乳豚	21 頭
発生戸数	1 戸	発症頭数	217 頭 (69.9%)
飼養頭数	312 頭	へい死	20 頭
繁殖豚	16 頭	鑑定殺	4 頭
肥育豚	202 頭	法令殺	193 頭

② 発症豚

(脇腹・肩・  
頭側に軽度  
の紫斑)



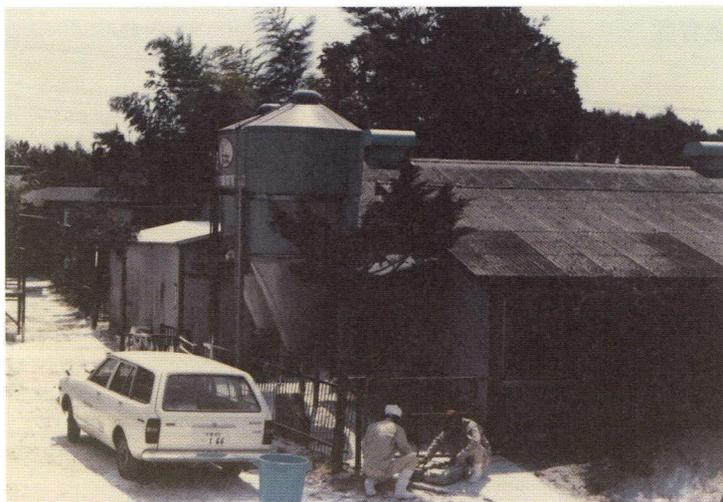
③ 殺処分豚



昭和 57 年 4 月の千葉県東庄町における発生  
(写真等提供：千葉県北部家畜保健衛生所)

- ① 概要 発生場所：東庄町窪野谷  
発生年月日：昭和 57 年 4 月 20 日  
発生頭数：133 頭（死亡 15 頭、鑑定殺 3 頭、殺処分 115 頭）

- ② 発生豚舎と  
屋外作業



- ③ 異常豚



昭和57年5月の岐阜県関市における発生 (1)

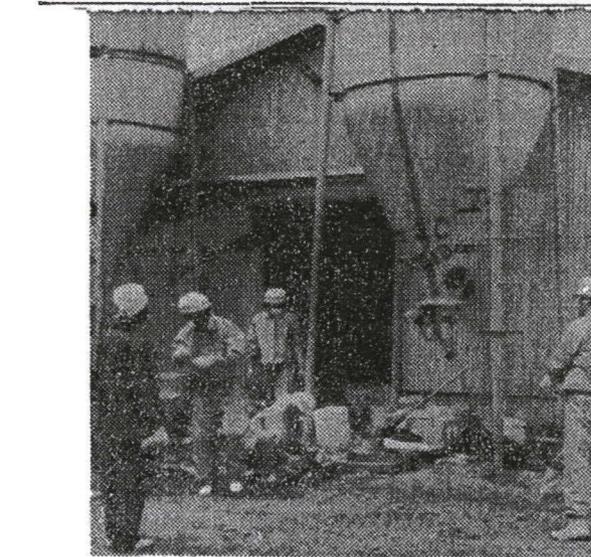
# 四百頭近くを薬殺

## 関の豚 コレラ 対策本部、防疫に全力

県下十八年ぶりに豚コレラが発生した。県農政部と岐阜家畜保健衛生所は、関市下有知の養豚農家で三日から豚が相次いで死亡したため原因を調べていたが、十日、豚コレラによるものと断定した。いまのところ豚コレラが発生しているのは二養豚農家で死亡頭数は二十九頭だが、豚コレラは感染性が高く、この日、県農政部畜産課に県防疫対策本部を、中濃家畜保健衛生所に現地対策本部を設置、防疫につとめている。

豚コレラが発生したのは関市中下有知、養豚農家大野敏さん(六十七頭飼育)。今日三日、豚一頭が原因不明で死亡。連絡を受けた中濃家畜保健衛生所では、大野さん宅への立ち入り禁止処置をとるとともに、原因を調べていたが、十日、豚コレラウイルスによるものとわかった。大野さん宅では九日までに二十九頭が死亡しており、豚ウイルスが感染したと思われる豚舎の豚三百八十一頭の処分を十日行った。

豚コレラはウイルスによって起こる急性伝染病で、法定伝染病に指定されている。感染した豚は三十一日の潜伏期があったあと発病、四〇―四二度の発熱、下痢、結膜炎症状などが現れる。死亡率は高く八〇%以上といわれ、発生予防はワクチン接種が最も効果がある。豚コレラにかかった豚肉を食べると、食中毒にかかる可能性もあるといふ。

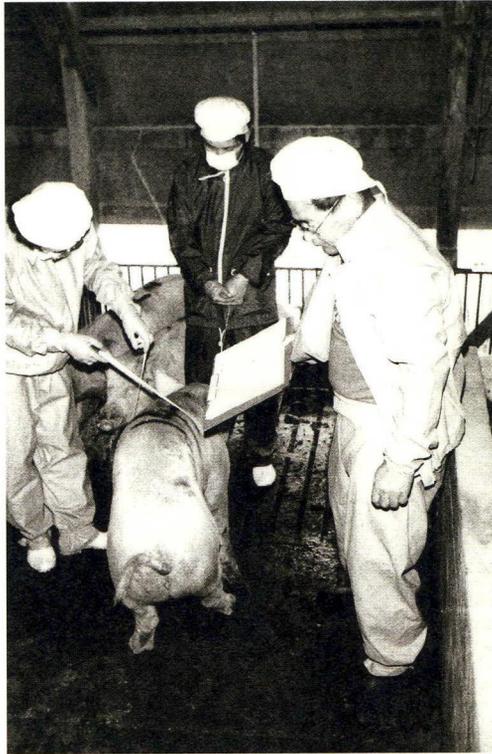


県下では十八年ぶりに豚コレラが発生した豚舎を消毒する保健所員ら＝関市下有知で

岐阜日日新聞  
昭和57年5月11日

昭和57年5月の岐阜県関市における発生(2)  
(写真提供：岐阜県)

① 殺処分前の豚の評価  
(301頭)

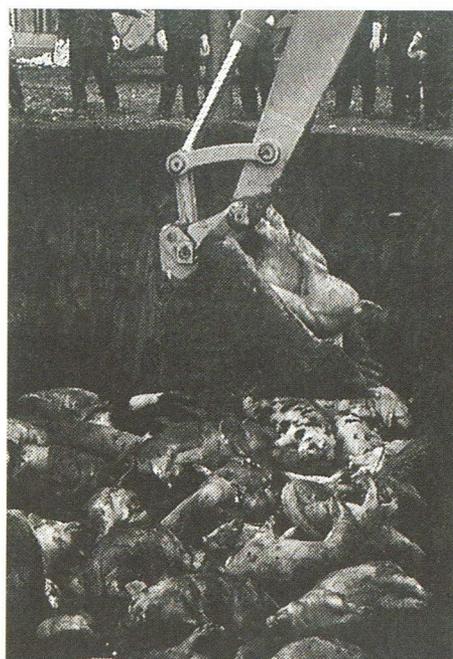


② 埋却作業



昭和 57 年の茨城県における発生  
(出典：茨城の豚コレラ防疫史)

埋却作業 (1)



埋却作業 (2)



昭和 61 年 10 月の沖縄県名護市における発生 (1)

# 異常大量死原因は豚コレラ



グッタリとなった豚、原因は豚コレラと判明した一名護市内

名護市、本部町の養豚七農家で豚の法定伝染病・豚コレラが発生、四日までに一千四百五十八頭が死んだ。六日七十一頭が死んだ。県内で豚コレラが発生するのは昭和四十年以来二十一年ぶり。事態を重視した県農水部では発生豚舎周辺の養豚農家に豚舎の消毒、予防注射などを呼びかけるとともに、六日付で発生豚舎からの豚の死体、豚コレラ病原体を広げる恐れのある物品の移出を禁止する告示を行った。同部では「発病した豚は予防接種を受けてないものだけ。予防注射を受けていればまず心配はない。人間にも影響はない」としている。伝染ルートはまだ分かってない。

八月上旬ごろから名護と本部の豚舎で子豚を中心に豚がスツレラ症の母症で死んだ大量に死んだことで、県農水と発表していたが、ウイルス性の病気の疑いもあるとして、七頭の検体を国の家畜衛生試験場へ送り、検査を依頼していた。この四日になって、七頭のうち、六頭が慢性豚コレラと診断された。豚コレラは法定伝染病で発病から一週間で百パーセント死亡するおそろしい病気。ウイルス性の病気だけにいったん病気がかかると治療はない。予防注射で発病は防げる。

豚コレラは、豚固有の病気で、感染後一週間で発病し、四一度以上の高熱を出し、食欲がなくなる。歩行が困難になり、腰がふらつき、狭くよちよちな動作をし、死にいたる。最近の感染後、三カ月以上も生存する慢性型が増えているという。

今回、豚コレラの発生が確認されたのは名護市済井出、五戸、本部町辺名地二戸の計七戸の養豚農家。七月で一万三百二十四頭を飼育している

北部で既に672頭死ぬ  
21年ぶり養豚農家に衝撃  
の発生

性(病気の疑いもあるとして、七頭の検体を国の家畜衛生試験場へ送り、検査を依頼していた。この四日になって、七頭のうち、六頭が慢性豚コレラと診断された。豚コレラは法定伝染病で発病から一週間で百パーセント死亡するおそろしい病気。ウイルス性の病気だけにいったん病気がかかると治療はない。予防注射で発病は防げる。

が、り患しているのは予防注射を受けてない一千四百五十八頭。県では発生豚舎周辺の養豚農家へ防庄対策の緊急指導を行うとともに、①豚の死体、豚コレラを広げる恐れのある物品の移出禁止②今後のまん延を防止するため発症豚を家畜防疫員立ち会いのもと殺処分するなどの告示も行った。

61.10.6  
琉球新報

昭和 61 年 10 月の沖縄県名護市における発生 (2)

(資料：沖縄県における豚コレラ発生記録、昭和 62 年 3 月、沖縄県発行)

① 豚コレラ発生豚房



② 殺処分豚の評価状況



③ 殺処分豚の埋却 (糸満市)



④ 緊急予防注射



平成3年10月の静岡県浜松市都田町における発生  
(写真：静岡県)

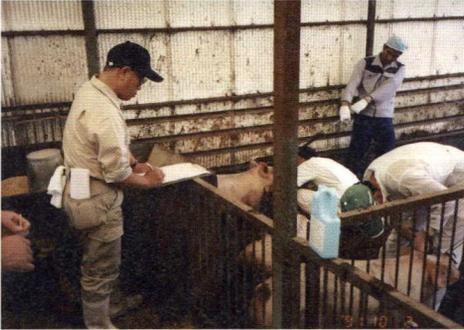
① 緊急防疫対策会議の開催



② 発症豚



③ 発症豚の殺処分



④ 豚と敷料の埋却



⑤ 豚舎内の消毒作業



⑥ 豚舎周囲の消毒（生石灰散布）

